

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	AcademicSpeaking&Presentation II		(NCR22D)
講義名 (コード)	Academic Speaking and Presentation II B		(NCR22DB)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	仲 恭子	時間数	30
成績評価教員	仲 恭子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	プレゼンテーションの基本を正確に理解し、説得力のあるプレゼンテーションの構造、表現が理解できる。
全体的内容と概要	目的に合わせたプレゼンテーションのタイプを学び実際にプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	説得型プレゼンテーションの構造が理解できる	説得型 (Persuasion) プレゼンテーションの構造を学び、原稿を完成する。
2	説得型プレゼンテーションができる	説得型 (Persuasion) プレゼンテーションをする。
3	問題解決型プレゼンテーションの構造が理解できる	問題解決型 (Problem and Solution) プレゼンテーションの構造を学び、原稿を完成する。
4	問題解決型プレゼンテーションの原稿が書ける	問題解決型 (Problem and Solution) プレゼンテーションの原稿を完成する。
5	問題解決型プレゼンテーションができる	問題解決型 (Problem and Solution) プレゼンテーションをする。
6	原因・結果型プレゼンテーションの構造が理解できる	原因・結果型 (Cause and Effect) プレゼンテーションの構造を学び、原稿を完成する。
7	原因・結果型プレゼンテーションの原稿が書ける	原因・結果型 (Cause and Effect) プレゼンテーションの原稿を完成する。
8	原因・結果型プレゼンテーションができる	原因・結果型 (Cause and Effect) プレゼンテーションをする。
9	比較対照型プレゼンテーションの構造が理解できる	比較対照型 (Comparison and Contrast) プレゼンテーションの構造を学び、原稿を完成する。
10	比較対照型プレゼンテーションの原稿が書ける	比較対照型 (Comparison and Contrast) プレゼンテーションの原稿を完成する。
11	比較対照型プレゼンテーションができる	比較対照型 (Comparison and Contrast) プレゼンテーションをする。
12	プレゼンテーションの評価を適切にできる	Presenter/audienceとして適切なプレゼンテーションの評価について学ぶ。
13	説得型・提案型プレゼンテーションの構造を理解し原稿が書ける	説得型・提案型 (Proposal) プレゼンテーションの原稿を完成し発表する。
14	Test	Review Test / 説得型・提案型 (Proposal) 説得型・提案型 (Proposal) プレゼンテーション準備
15	説得型・提案型プレゼンテーションができる Test	説得型・提案型 (Proposal) プレゼンテーション

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Winning Presentations 8 types of Successful Presentation (Seibido)
参考文献・資料等	
備考	